

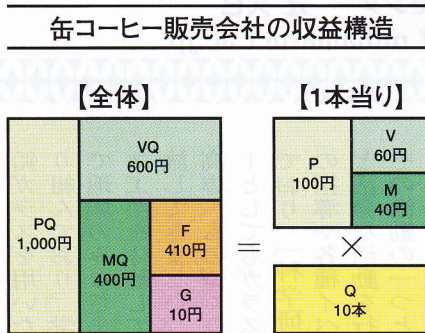
中小企業診断士  
森田正雄

# 科学的経営入門

全6回シリーズ

～楽しんで儲けるために～

第6回:「経営の常識は真理にあらず!」



●赤字に転落した缶コーヒー会社  
このシリーズ第2回目のクイズで紹介した缶コーヒー販売会社は、売上高PQ1000円、変動費VQ600円、粗利総額MQ400円、固定費F300円、利益G100円という収益構造でしたが、固定費Fが410円に増えたため、左図の通り利益G▲10円の赤字会

「科学的経営入門」シリーズの最終回は「経営の常識は真理にあらず!」です。  
●利益Gを上げるためには「利益Gを上げるためにどうすれば良いか」という質問をすると、ほとんどの人は次のように答えるのではないのでしょうか。  
①売上高アップ、②原価率引き下げ、③経費削減、この答えは本当に正しいのでしょうか。

社に転落してしまいました。  
●経営の常識は真理にあらず!  
このシリーズ第3回目で説明をしましたが、利益Gを決める要素には、売価P、変動単価V、数量Q、固定費Fの4つあって、これ以外にはありません。  
常識では、売価Pと数量Qをアップすると、利益Gはアップし、変動単価Vと固定費Fをダウンすると利益Gはアップします。  
しかし、経営の真理を追求する科学的経営の観点では、事例のように「逆もまた真なり」なのです。  
●赤字を解消し黒字にするには  
それでは、この缶コーヒー販売会社が、現状の利益G▲10円の赤字を解消して、20円の黒字にするには、どうすれば良いのでしょうか。

要素	常識	科学的経営	事例
P(売価)	↗	↘	ユニクロ
V(変動単価)	↘	↗	スロー
Q(数量)	↗	↘	会員制
F(固定費)	↘	↗	MGをやるとわかる
G(利益)	↗	↗	

●常識では解けないクイズ  
この缶コーヒー販売会社が、製品1個当たりの平均売価P100円、数量Q10個、製品の変動単価Vと粗利単価M、固定費F410円を変えないで、利益G▲10円の赤字を20円の黒字にするにはどうすればよいのでしょうか。

要素	現状	常識	解答	変化率
P(売価)	100円	↗	103円	3%↗
V(変動単価)	60円	↘	57円	5%↘
Q(数量)	10個	↗	10.75個	7.5%↗
F(固定費)	410円	↘	380円	7.3%↘
G(利益)	▲10円	↗	20円	30円↗

常識では、現状の売価P100円を3%アップして103円にすると、利益Gは30円増加して、20円の黒字になります。  
同様に、現状の変動単価V60円を5%ダウンの57円に、現状の数量Q10個を7.5%アップの10.75個に、現状の固定費F410円を7.3%ダウンの380円にすると、利益Gは30円増加して20円の黒字になります。

●クイズを解くためのヒント  
目標利益Gは20円、固定費Fは410円なので、粗利総額MQ430円を獲得する「MQ経営」こそ儲けるための秘訣なのです。  
●新シリーズのお知らせ  
本シリーズは今回が最終回です。長い間ご愛読ありがとうございました。4月から新シリーズ「経営の損得学入門(仮題)」(全6回)が始まりますので楽しみに。

缶コーヒー販売会社にはA・B・C3種類の製品があります。  
売価Pは全品100円、粗利単価Mは、Aが60円、Bが40円、Cが30円とすると、Aの数量Qを1個増やし、Cの数量Qを1個減らすことで、クイズの条件を満たしながら、目標利益Gを20円の黒字にすることができのです。

	A製品	B製品	C製品	平均
売価P	100円	100円	100円	100円
変動単価V	40円	60円	70円	60円
粗利単価M	60円	40円	30円	40円
	A製品	B製品	C製品	合計
数量Q	1個	7個	2個	10個
粗利総額MQ	60円	280円	60円	400円
	↓	↓	↓	↓
数量Q	2個	7個	1個	10個
粗利総額MQ	120円	280円	30円	430円

森田経営研究所

〒790-0052 松山市竹原町1丁目2-8-802  
TEL : 089-993-8978 FAX : 089-993-8978

E-mail: mmorita@moritakeiei.com  
http://www.moritakeiei.com

